

一 十如是の事

仰せに云はく、此の十如是は法華經の眼目、一切經の總要たり。されば此の十如是を開覺しぬれば、諸法に於て迷悟無し、実相に於て染淨ぜんじょう無し。之に依って天台大師は止觀の十章も此の十如是より釈出せり。然る間十如是に過ぎたる法門更に以て之無し。ここ爰を以て和尚授けて云はく「十大章は是全く十如是、若し大意を覺る時は、性如是の意を以て下の玄如の図を分別すべし」と。十如是を十大章に習ふ事は、性如是は大意なり、相如是は釈名、体如是は体相、力如是はしょうぼう撰法、作如是は偏円、縁如是は方便、因如是は正觀、果報如是は果報、本末究竟如是はしき旨歸なり。此の中に起教の章はけたりもつか化他利物果上じょうけゆう化用と云ふなり云云。